

令和4年 本市自殺の現状について

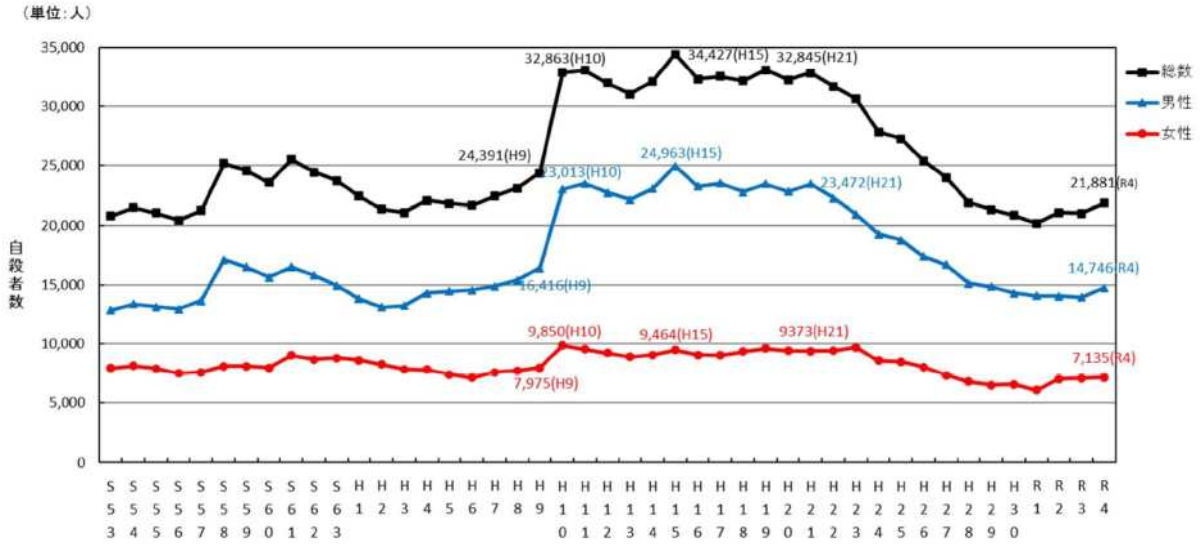
- 1 全国の自殺の概況（警察庁統計） 2
- 2 本市・埼玉県・全国の自殺死亡率推移（人口動態統計） 4
- 3 本市の自殺の現状（警察庁統計） 5

1 全国の自殺の概況（警察庁統計）

自殺者数の年次推移

○令和4年の自殺者数は21,881人で、前年に比べ874人(4.2%)増。

○男女別にみると、男性は13年ぶりの増加、女性は3年連続の増加となっている。また、男性の自殺者数は、女性の約2.1倍となっている。

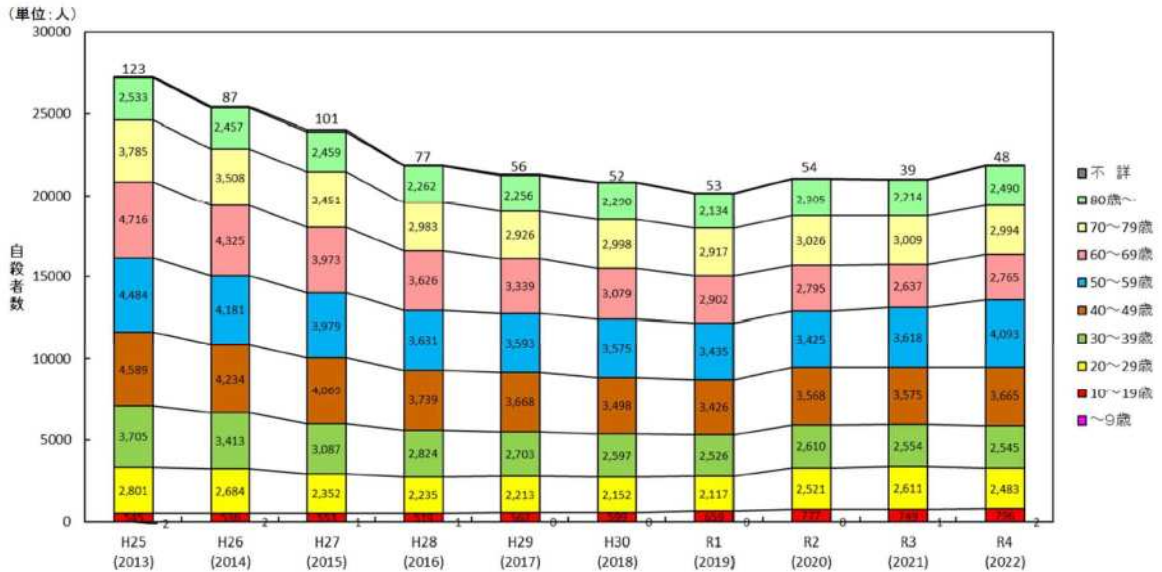


資料:警察庁自殺統計原票データより厚生労働省作成

年齢階級別自殺者数の年次推移

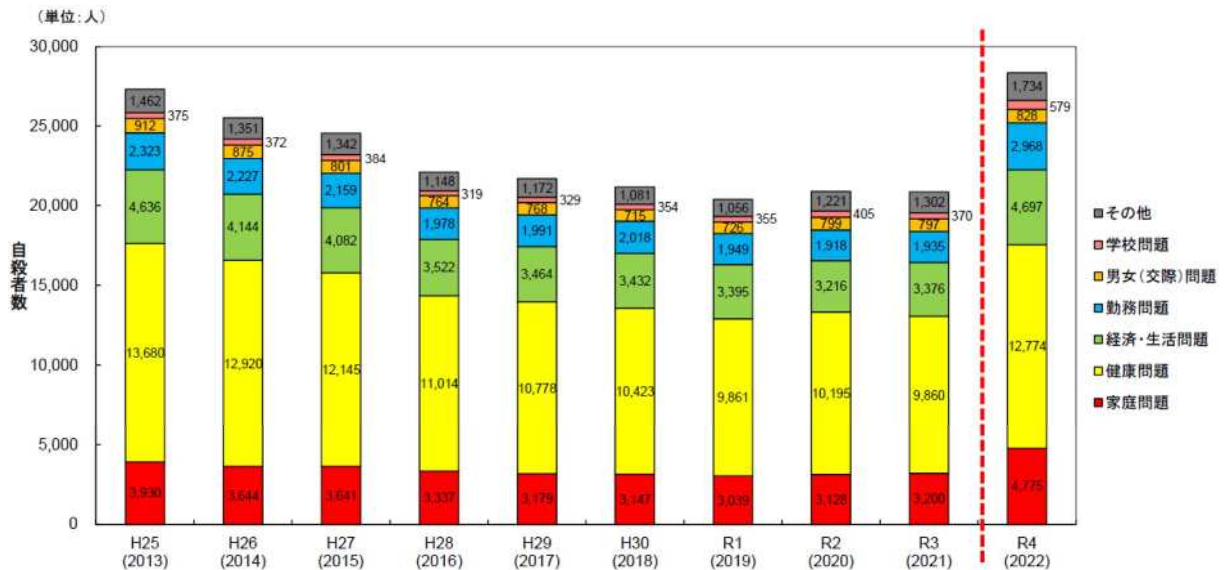
○令和4年は令和3年と比較して、20歳代、30歳代及び70歳代以外の各年齢階級で増加した。

○増加した年齢階級の中では、50歳代が最も大きく増加し、475人の増加となった。一方、減少した年齢階級の中では、20歳代が最も大きく減少し、128人の減少となった。



資料:警察庁自殺統計原票データより厚生労働省作成

自殺の原因・動機別自殺者数の年次推移

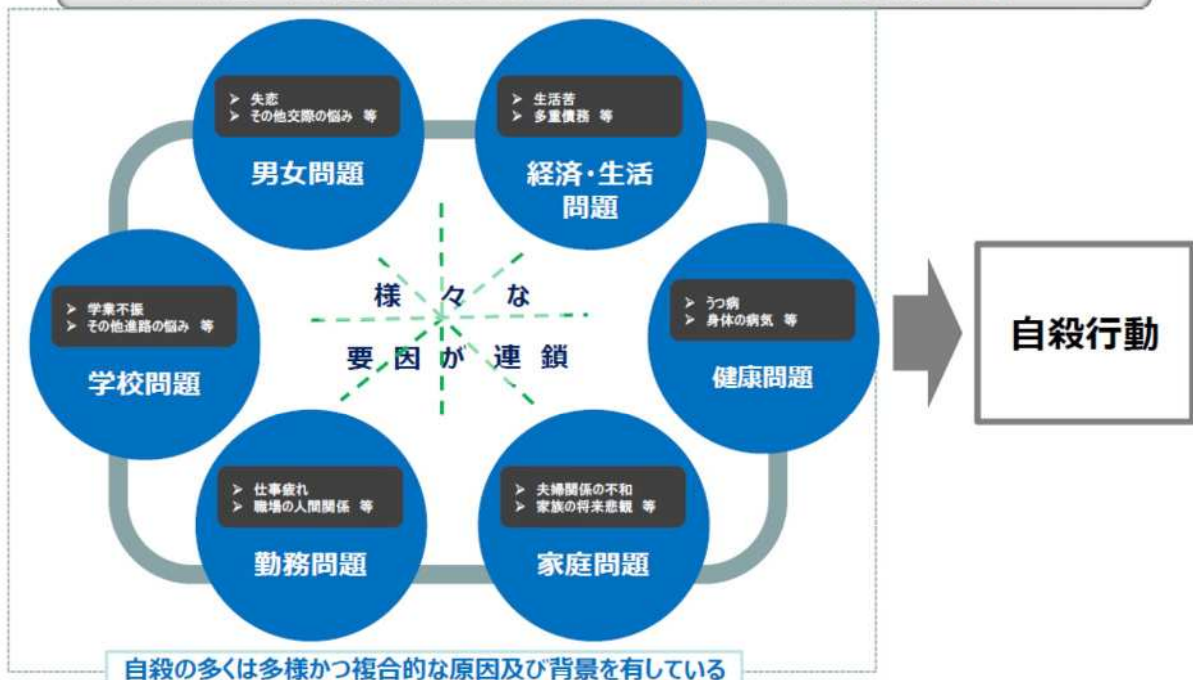


※自殺の原因・動機に関して、令和3年までは、遺書等の生前の言動を裏付ける資料がある場合に限り、自殺者一人につき3つまで計上可能としていたが、令和4年からは、家族等の証言から考えうる場合も含め、自殺者一人につき4つまで計上可能とした。このため、単純に比較することはできない。

資料:警察庁自殺統計原票データより厚生労働省作成

自殺の原因・背景について

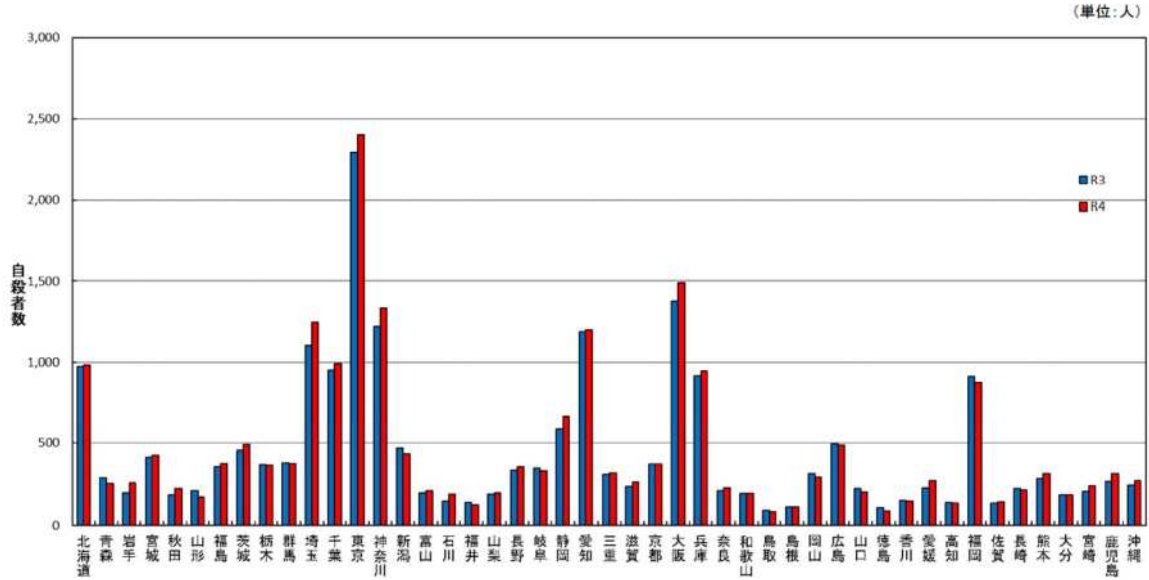
➢ 自殺の多くは多様かつ複合的な原因及び背景を有しており、様々な要因が連鎖する中で起きている。
(「経済・生活問題」や「家庭問題」等、他の問題が深刻化の中で、これらと連鎖して、うつ病等の「健康問題」が生ずる等)



令和3年及び令和4年における都道府県別(発生地)の年間自殺者数

○令和4年は令和3年と比較して、19府県で減少、28都道府県で増加となった。

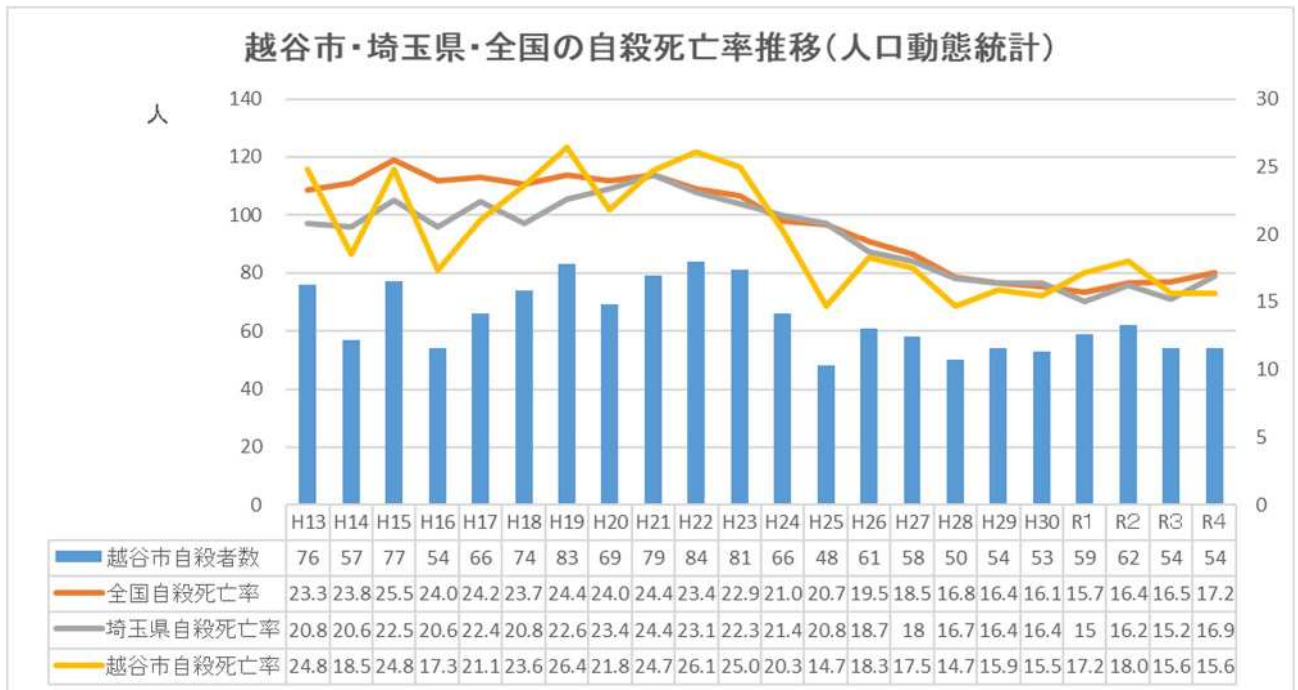
○減少幅が最も大きかったのは山形県で38人、次いで福岡県で35人、青森県で34人の減少となった。



注:本統計は、自殺の発生地における計上であり、自殺者の居住地とは異なる。

資料:警察庁自殺統計原票データより厚生労働省作成

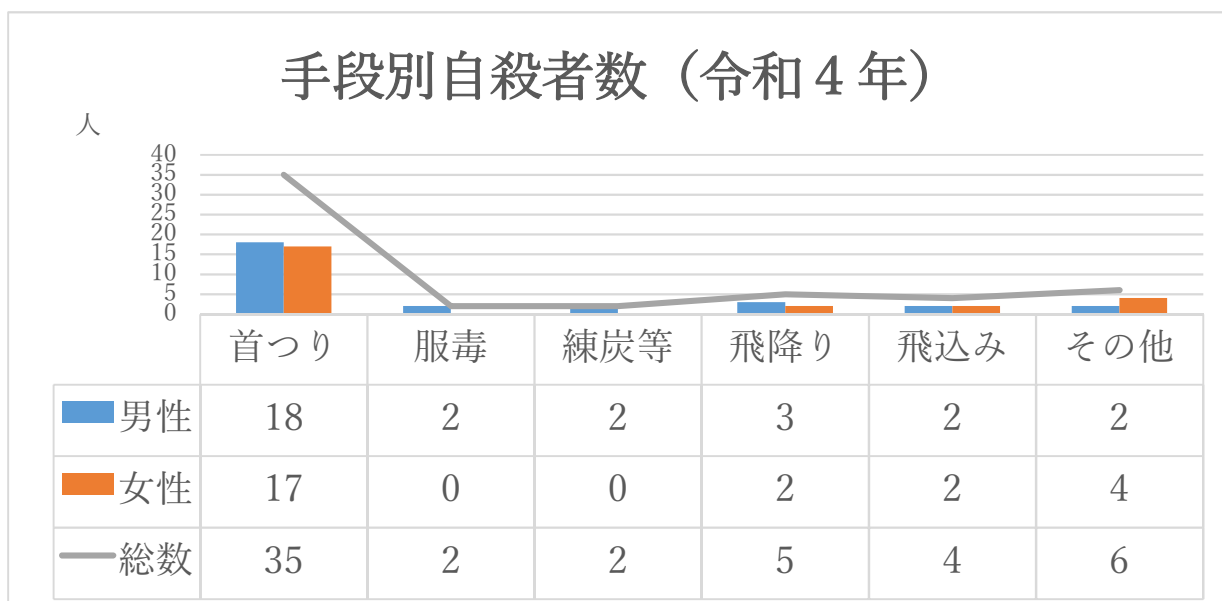
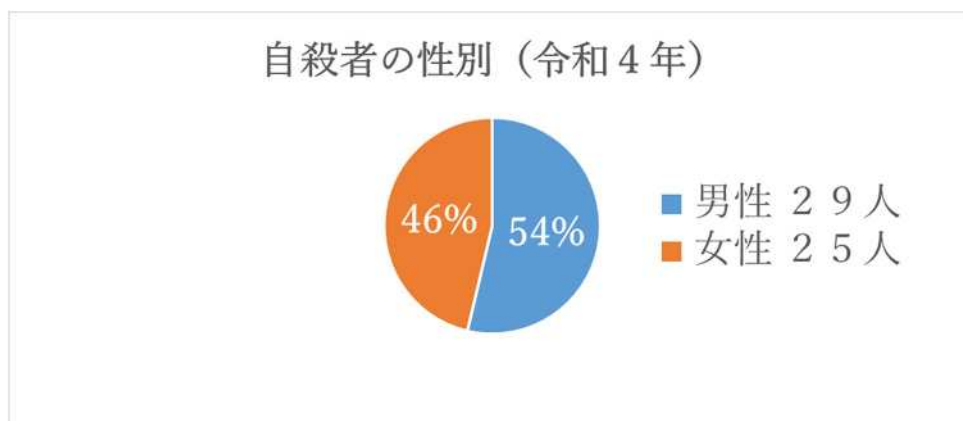
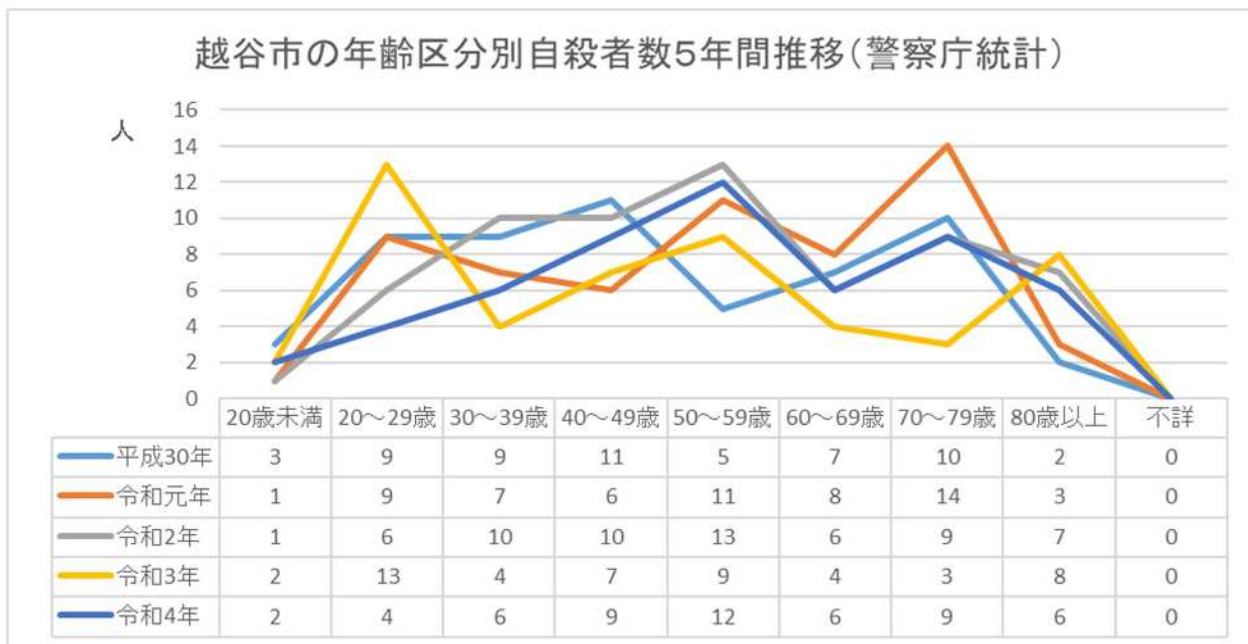
2 本市・埼玉県・全国の自殺死亡率推移 (人口動態統計)

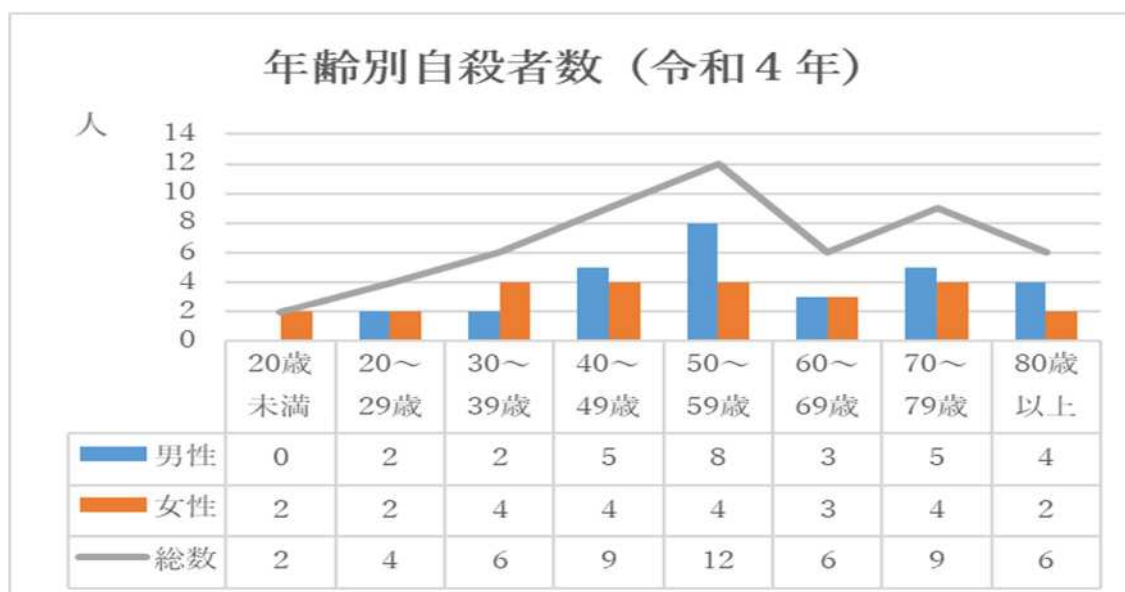
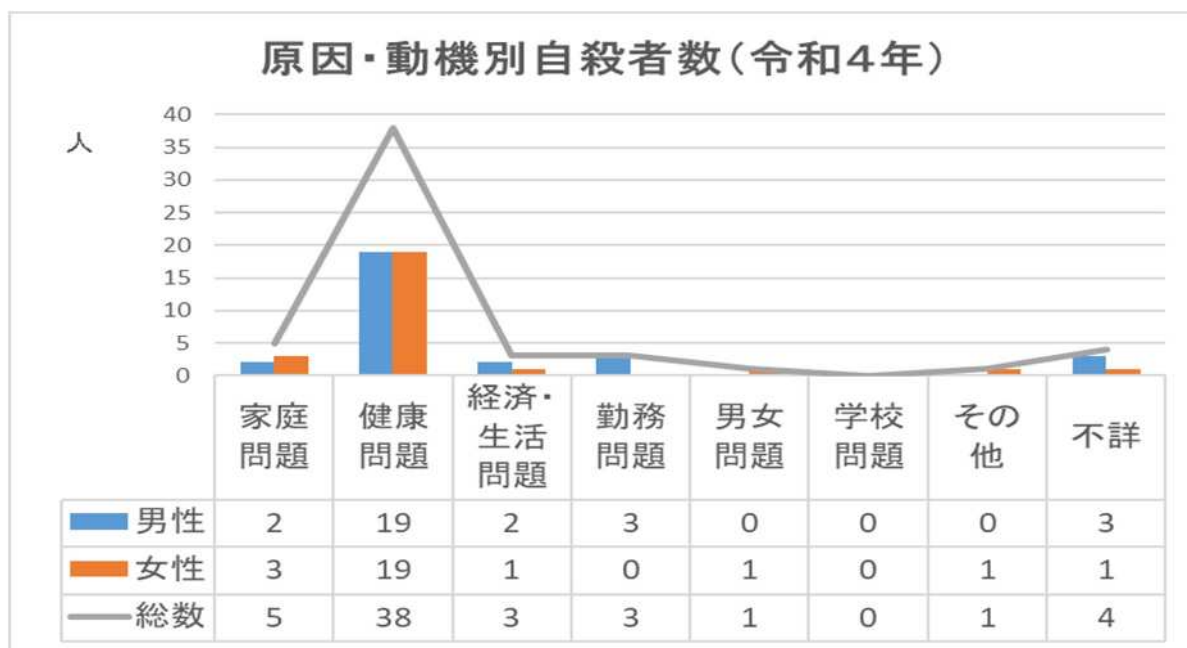


※自殺死亡率は人口10万人あたりの年間自殺者数の割合

※令和4年本市の自殺者数・死亡率は参考値

3 本市の自殺の現状（警察庁統計）





令和5年1～8月の自殺者数 (本市暫定値)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	計
男	2	3	1	4	5	3	2	3	23
女	0	2	2	1	0	0	2	4	11